第66回（2022年度）　北海道開発技術研究発表会論文

ＪＲ旭川駅周辺を拠点とした地域連携による魅力的なかわづくりについて
―観光・アクティビティ・教育が融合した水辺利用の推進―

旭川開発建設部　治水課　　○安井　明子
越智　啓介
伊藤　昌弘

「あさひかわ北彩都ガーデン」を含むJR旭川駅周辺は、観光スポットとしての魅力・存在感やゲートウェイとしての重要度が高まっており、隣接する水辺空間は人が輝く地域社会の形成や世界に目を向けた観光産業の振興に資する様々なポテンシャルを有している。本稿は、このような地域特性に着目し、観光・アクティビティ・教育の融合の観点から、地域と連携した魅力的なかわづくりを推進するための利活用方策を検討したものである。

キーワード：まちづくり、地域活性化、地域交流・連携

1. はじめに

JR旭川駅前から繋がる平和通買物公園周辺を含む旭川市中心市街地は、郊外型商業施設等の出店が相次ぎ、老舗百貨店が閉店するなど相対的に中心性が低下していた。昭和60年代以降、中心性の回復や忠別川で分断されていた都心部と神楽地区の連続化を実現させるための整備事業が推進された。JR旭川駅南側に「北彩都あさひかわ」が整備され、北側に駅直結のショッピングモールが開業するなど、近年旭川の顔としての存在感が高まっている。

また、JR旭川駅を起点としたサイクリング利用が盛んに行われており、地元からJR旭川駅南側の忠別川をメインフィールドに観光・アクティビティ・教育が融合した利活用の推進を望む声が挙がっていた。

そこで、JR旭川駅南側地区（**写真-1**）を拠点として、旭川市内に分散している観光・アクティビティ・教育の拠点となるエリアを「かわ」でつなぎ、新たな観光動線の創出やエリア間の観光客流動の活発化に伴う広域的な観光振興や活性化を一層推進する「かわづくり」を推進するための利活用方策を検討したものである。

2. 地域概要

(1) 旭川市の概要

旭川市は大雪山の麓の上川盆地に位置し、平坦な地形と肥沃な土壌、さらに石狩川等の水利に恵まれた穀倉地帯となっており、人口約32万人で札幌市に次ぐ規模の都市となっている。明治24年の屯田兵の入植以降、上川の中心として開拓が進められて産業・経済の基盤が成立し、道北の要としての使命を担ってきた。

我が国の食糧供給に重要な役割を担う稲作等の農業や、食料品、紙パルプ等の製造業、旭川家具をはじめとした木工、機械金属等のものづくり産業が集積しているほか、北北海道の交通・物流の拠点として、卸・小売業、サービス業等が発展している。

主要国道4本、JR4線の始終点となっているほか、平成2年10月に道央自動車道が開通するなど、道北・道東地域の商業流通の拠点都市として着実に発展を遂げている。平成30年の旭川空港国際線ターミナルの供用開始や航空路線の充実により、近年外国人観光客が増加しており、全国的に知られる旭山動物園や雪質の良いスキー場等に国内外から多くの観光客が訪れている。

(2) 忠別川及び牛朱別川の概要

忠別川は、その源を忠別岳（標高1,963m）に発し、天人峡を経て忠別ダムに入り、その後、旭川市の市街部を河床勾配1/150～1/350で貫流し、美瑛川を合わせて石狩川に合流する幹川流路延長59km、流域面積1,063km^{2}の石狩川の1次支川である。礫河床の急流河川であり、ドロノキ・エゾヤナギを中心としたヤナギ類やケヤマハンノキを中心とした河畔林が見られ、水辺にはヨシ、クサヨシが点在している。

牛朱別川は、その源を米飯山（標高920m）に発し、上川盆地に入り、豊かな水田地帯を西に流れて、ペーパン川等を合流した後、旭川市の市街部を貫流して石狩川に合流する幹川流路延長37km、流域面積481km^{2}の石狩川の1次支川である。周辺の都市化により水質汚濁が顕著であったため「流水保全水路整備事業」が実施され、近年は水質汚濁に係る環境基準（BOD75%値、類型指定A：2.0mg/l以下）を満足している。

YASUI Akiko, OCHI Keisuke, ITO Masahiro

写真-1　JR 旭川駅南側周辺の現状

図-1　石狩川上流域

3. 地域の取組み

(1) 自治体のまちづくり関連計画

旭川市では、目指す都市像とその実現に向けた基本的な方向性を共有し、多様な担い手が連携し施策を推進するための様々なまちづくり関連計画が策定されている。

①第8次旭川市総合計画

- ➢食や農等の地域資源や特性を活かした地場産業の振興やブランド力の向上
- ➢市民がスポーツに親しみ、健康増進・心身のリフレッシュを図ることができる環境づくり

②旭川市都市計画マスタープラン

- ➢JR旭川駅や買物公園等のシンボル的な空間や中枢機能の集積を活かした中心市街地づくり
- ➢季節を通じて、石狩川等の豊かな自然環境と都市を歩いて楽しめるにぎやかな地域づくり

③旭川観光基本方針

- ➢着地型・体験型の観光コンテンツ拡充
- ➢観光客の満足度向上のための受入体制の整備・充実
- ➢教育旅行の誘致
- ➢非積雪市場への冬季観光プロモーションの展開

④旭川市景観計画

- ➢豊かな自然が感じられ、川から見通す大雪山の眺望が確保される河川空間
- ➢河畔林の保全や緑地の創出

⑤旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- ➢都市・農村・自然が共創し、ひととしごとが力強く好循環する北北海道の拠点づくり
- ➢アウトドア環境を活用した滞在の促進
- ➢多くの観光客が立ち寄る中心市街地の魅力発信
- ➢冬季イベント等の充実による冬季観光の推進

(2) JR旭川駅周辺の都市整備

上記計画をもとに、「川からのまちづくり」を基本コンセプトとし、忠別川沿いの自然環境空間と買物公園等、既存市街地の都市と自然の一体化を図り、中心市街地の賑わい創出と活力を取り戻すことを目的に、平成10年度～平成27年度にかけて「北彩都あさひかわ整備事業」が実施された。

忠別川の大きな景観を生かしながら、都心部にくつろぎの空間を創り出すことにより生活に潤いをもたらすとともに、雄大な自然環境や旭川の気候で育った植物を市民や観光客が身近に触れ楽しむことができる「あさひかわ北彩都ガーデン」等が整備された。

(3) 地域におけるサイクルツーリズム

アジアの中でも特徴的で魅力的な北海道の観光資源を活かしながら、統一的なコンセプトのもとサイクルツーリズムの振興による広域的な周遊観光等の地域振興を実現するため、目指す姿や具体的な取組方法、役割分担等を示す共通の指針として「北海道のサイクルツーリズム推進方針」が定められた。

令和元年8月に設立された「北海道サイクルルート連携協議会」において、北海道内の広域基幹サイクリング

ルート8ルートが設定されており（**図-2**）、旭川市が北海道内の広域基幹サイクリングルートの中心に位置している。各ルートにおいて関係機関が連携し、質の高いサイクルツーリズムの提供が推進されている。

旭川市は「旭川市自転車活用推進計画」を策定し、平成4年度から5ヶ年計画で、快適な自転車利用空間の創出、自転車を活用したライフスタイルの構築、地域の魅力・特性を活かしたサイクルツーリズム、安全・安心な自転車利用の普及啓発を目指し、自転車通行空間の整備、交通ルールの啓発、サイクリスト受入環境の整備、SNSによる魅力の情報発信等を推進している。

JR旭川駅構内の「旭川観光物産情報センター」では毎年4月下旬から10月下旬にかけてレンタサイクルを実施しており、観光客等に利用されている。

忠別川・牛朱別川沿いのサイクリングロードは「石狩川流域圏会議」の石狩川流域サイクリングルートや「ジャパンエコトラック推進協議会」の主要ルートに位置付けられており、サイクリング利用の起終点としてのJR旭川駅の重要度は極めて高い。

図-2　北海道内の広域基幹サイクリングルート

(4) 観光・イベントに係る取組み状況

「あさひかわ北彩都ガーデン」では、夏の「北彩都ガーデンフェスタ」（**写真-2**）、秋の「オータムガーデン」、冬の「冬の遊び広場」等多くのイベントが開催されており、多くの市民が庭園だけでなく、ランニングや歩くスキー等の様々なコンテンツを楽しんでいる。

また、忠別川沿いをコースとする国際スキー大会である「バーサーロペット・ジャパン」（**写真-3**）や100万人以上が来訪する「旭川冬まつり」をはじめとして、花火大会やマラソン大会等、四季を通じた各種イベントが忠別川・牛朱別川周辺で実施されており、忠別川・牛朱別川は周辺地域の社会・文化と深い結びつきを持っている。

(5) 河川利用・アクティビティに係る取組み状況

忠別川のサイクリングロード沿いの公園、野球場、パークゴルフ場は様々なイベントやスポーツ、憩いの場等となっているほか、自然観察や魚釣り等自然とのふれあいの場として多くの市民に利用されている。

忠別川・牛朱別川は石狩川上流域のフットパスコースに位置付けられており、忠別川コースでは宮前公園や神楽岡公園が見どころで、牛朱別川に架かる橋梁上では野外彫刻を鑑賞することができる。

また忠別川では、急流下りを楽しむラフティングモニターツアーが過去に行われており、川下りのほか、サケの遡上や野鳥観察を楽しむことができる。

(6) 教育に係る取組み状況

上川アイヌの文化や明治期の街づくりの歴史と豊かな自然の関わりを楽しみながら学ぶことを目標に、神居古潭峡谷から大雪山系までの広大な範囲を対象地域とした「大雪山カムイミンタラジオパーク構想」があり、現在認定に向けた活動が展開されている。

JR 旭川駅周辺に位置する旭川市博物館では、幼児施設・学校団体・児童会等を対象に、アイヌ文化に関する体験講座や昔のくらし解説等、様々な体験学習メニューが実施されている。

旭川市科学館には、体験展示スペースや天体・天文に関する知識を学べるプラネタリウム・天文台があり、敷地内の自然観察空間では近隣の神楽岡公園や忠別川河畔林等の豊かな自然に囲まれた空間で、鳥や昆虫等の観察や様々な科学を楽しく学ぶことができる。

また、河川においては、市民や地元の NPO 等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会（**写真-4**）等の環境教育が推進されている。

写真-2　北彩都ガーデンフェスタ

写真-3　バーサーロペット・ジャパン

写真-4　水生生物の観察会

4. かわづくりの推進方策

前述の地域特性に着目し「北海道内の広域基幹サイクリングルートの中心」「忠別川を活用したアクティビティ」「JR旭川駅から旭山動物園までのサイクリング」を3つの柱とする、魅力的な「かわづくり」の推進に向けた目標を設定した。

次に、設定した目標を踏まえ、地域に愛され観光客等の外部の人間にとっても魅力的な「かわ」を目指すとともに、水辺と「まち」をつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出するため、まちづくり関連計画や地域のニーズに沿った利活用・整備方策を立案した。

立案にあたり、旭川市・学識経験者・地元関係者・市民公募者からなる「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」において意見交換を行い、地域特有の観光・教育資源との有機的な連携や運営体制等について意見を聴取した。

以下に、JR旭川駅南側地区における魅力的な「かわづくり」の基本理念と利活用・整備方策の概要を示す。

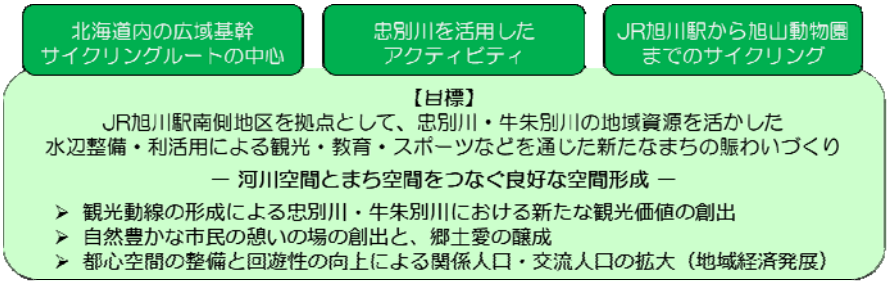

図-3　JR旭川駅南側地区における魅力的な「かわづくり」の基本理念

表-1　利活用・整備方策の概要

基本理念の柱	フィールド	利活用方策	整備方策
北海道内の広域基幹 サイクリングルート の中心 ▶河川管理用通路の活用 ▶JR旭川駅周辺の水辺利用	JR旭川駅 南側地区	■水辺を周遊する広域的なサイクリング・フットパスコースの設定 ▷初心者・中上級者向けサイクリング・ジョギング・ランニング推奨コースマップの作成 ▷サイクリング・ランニング大会の実施 ▷サイクリングモニュメントの有効活用 （インスタ映えスポット、サイクリングイベント会場等）	■観光周遊コース案内・誘導看板 ▷観光拠点施設間の動線構築 ■サイクリングモニュメント ▷広域基幹サイクリングルート起終点としての賑わい創出
		■ICTを活用した情報提供 ▷かわまちづくりのSNSアカウント作成、動画配信 （定期的な情報発信） ▷かわまちづくり関連サイトQRコードの発信 （コースマップ、地元広報誌等への掲載）	■観光周遊コース案内・誘導看板 ▷観光拠点施設間の動線構築
忠別川を活用した アクティビティ ▶河川管理用通路の活用 ▶忠別川の水辺利用	忠別川	■アクティビティ利用プランの設定 ▷JR旭川駅からのレンタサイクル片道乗り捨て及びラフティングによる川下り	■親水広場 ▷水辺で川と触れ合い水遊びができる空間の創出
		■水辺空間を活用した環境教育の推進 ▷忠別川の歴史・自然を学ぶ体験学習の連続講座、河川管理者と連携した水防講座 ▷カヌー・SUP等のアクティビティを活用した体験イベント、水辺でのアイヌ文化体験教室	■親水広場 ▷水辺で川と触れ合い水遊びができる空間の創出
		■冬のアクティビティプランの設定 ▷河川管理用通路沿いのアイスキャンドル（あさひかわ街あかりイルミネーションの拡張） ▷堤防沿いの積雪面を利用した雪遊びイベント （スノーシュー等の冬のアクティビティ体験等）	■親水広場 ▷水辺で川と触れ合い水遊びができる空間の創出 ■取付道路 ▷水辺へのアクセス性向上
		■水辺空間での新たなイベント・アウトドア利用の企画 ▷キッチンカーによる飲食販売、水辺ヨガ体験等 ▷既存インフラ施設を活用した水辺イベント （橋梁へのプロジェクションマッピング等）	■親水広場 ▷水辺で川と触れ合い水遊びができる空間の創出
		■安全・安心な水辺利用に関するルールづくり ▷ルールの明確化（利用ルール・ガイドラインの策定） ▷利用ルールのPULL型・PUSH型情報発信による周知 （周知看板、出前講座、新聞広告への掲載等）	■橋梁標示 ▷水辺アクティビティ利用者の視認性向上
JR旭川駅から 旭山動物園までの サイクリング ▶河川管理用通路の活用	牛朱別川	■サイクリング利用プランの設定 ▷JR旭川駅～旭山動物園間のレンタサイクル片道乗り捨て	■路面標示 ▷サイクリング利用者の視認性向上
		■水辺を周遊する広域的なサイクリング・フットパスコースの設定 ▷初心者・中上級者向けサイクリング・ジョギング・ランニング推奨コースマップの作成 ▷サイクリング・ランニング大会の実施	■側帯 ▷駐輪・休憩スペースの確保
		■安全・安心な水辺利用に関するルールづくり ▷ルールの明確化（利用ルール・ガイドラインの策定） ▷利用ルールのPULL型・PUSH型情報発信による周知 （周知看板、出前講座、新聞広告への掲載等）	■路面標示 ▷サイクリング利用者の視認性向上

図-4　利活用方策の実施予定箇所位置図

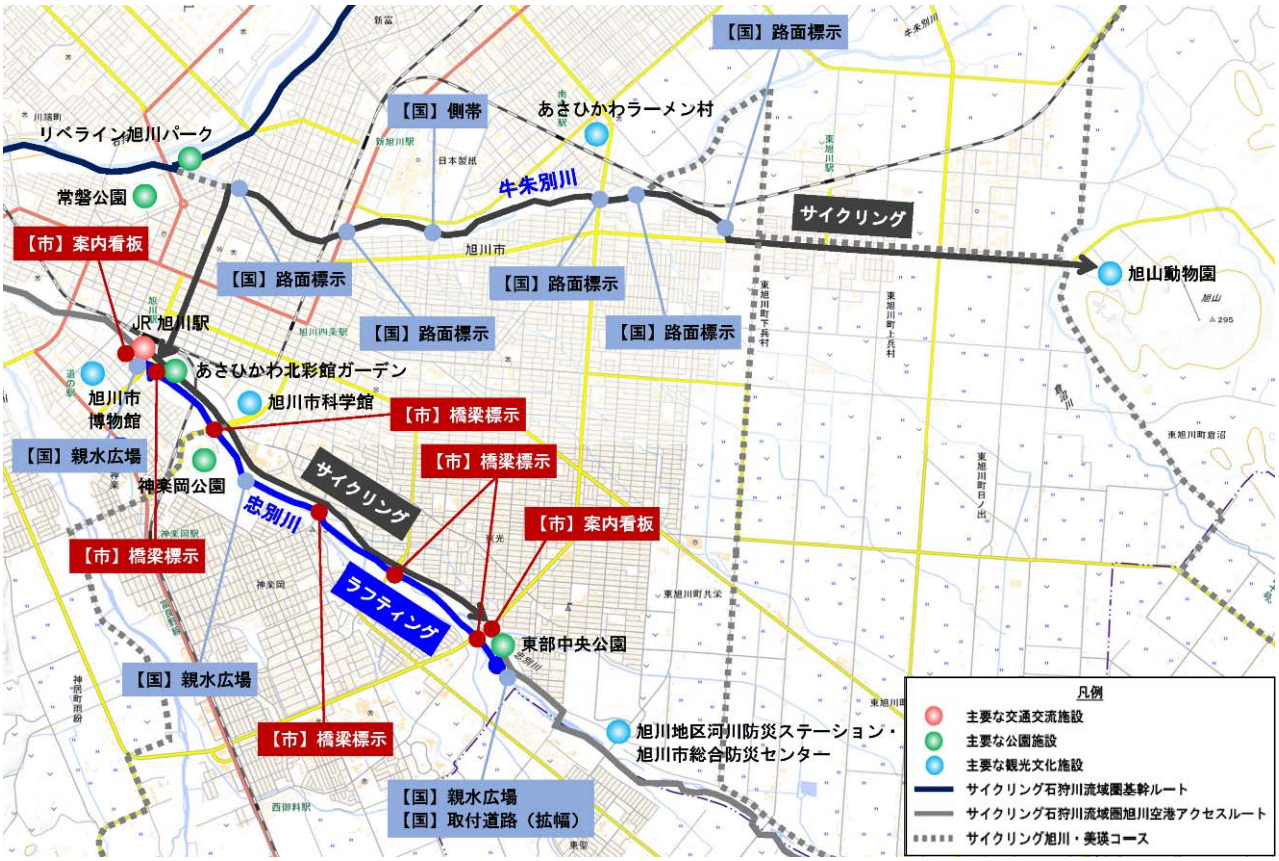

図-5　整備方策の実施予定箇所位置図

あさひかわ北彩都ガーデン（鏡池）

親水広場（忠別川）

親水広場及び取付道路（忠別川）

橋梁標示（忠別川）

側帯（牛朱別川）

路面標示（牛朱別川）

図-6　利活用・整備方策のイメージ

5. かわづくりの効果について

地域と連携しながら、観光・アクティビティ・教育が融合したかわづくりを推進することにより、JR旭川駅南側地区の親水性・利用価値の向上とともに、以下の効果が期待される。

(1) 広域的なサイクルツーリズムへの貢献

かわづくりと一体となったサイクリング利用の推進により「サイクリングのまち旭川」としての認知度・知名度が向上し、北海道のサイクルツーリズムにおける旭川の存在感が増し、他の広域基幹サイクリングルートと連携した広域的なサイクルツーリズムの推進において中心的な役割を担うと考える。

(2) インバウンド集客の増大

日常的な風景を楽しんだり、比較的リーズナブルな価格で手軽に利用できることもあり、インバウンドの中で近年全国的にサイクリングツアーが人気となっている。

観光交流施設と連携したインバウンド向けのサイクリングツアーを企画し、SNSや旅行会社等を活用したPRを積極的にすることにより、集客の増大が期待できる。

(3) 修学旅行の誘致

水辺空間でのアクティビティとJR旭川駅周辺の文化・教育施設が連携した小中学生向けの参加・体験型プログラムを企画し、積極的に学校団体にPRすることにより、修学旅行の誘致が期待できる。豊かな自然環境の中で非日常を体験することにより、次世代を担う子どもたちの感性が刺激され、学びの充実に繋がると考える。

6. 今後の取組み

整備後のモニタリングや地元関係者との連携等、持続的な取組みに向けた仕組みづくりや、関係機関と連携した以下の取組みを推進する。

①かわまちづくり支援制度への登録

- ➢かわまちづくり計画の策定
- ➢旭川市と連携した水辺空間の円滑な利活用促進

②かわたびほっかいどうへの展開

- ➢グルメやインフラ等との連携による旭川らしい地域づくり・観光振興に資する各種施策の実施
- ➢集客力の高い施設との連携による利用客へのPR

③都市・地域再生等利用区域の指定

- ➢河川空間のオープン化に伴う民間事業者によるオープンカフェやキッチンカー等の営業活動
- ➢社会実験等の試行的実施

7. おわりに

本検討を通して、忠別川・牛朱別川の水辺利用に対する地域住民の熱い想いが、かわづくりや地域の観光振興の大きな推進力となりうることを確認した。

忠別川・牛朱別川を管理する旭川開発建設部においても、継続して地域との意見交換を実施し、今後の取組みの実施に向け地域との連携を強化していきたい。

謝辞：本稿の作成にあたり、旭川市地域振興部地域振興課より図・写真データを提供いただいた。ここに感謝の意を表す。

YASUI Akiko, OCHI Keisuke, ITO Masahiro